

## 『初心忘るべからず』

## 『目標』『挑戦』……『諦めない』



高井法博会計事務所

所長 高井 法博

事務所では新入社員が入ってきており、家庭では、下宿生活を送っている今度高校三年生になる長女が、春休みで家に帰ってきています。

可愛い娘を、寂しい思いと家族の今一つの不安を敢えて押し切り、目標を持たせて行かせた高校である。本人は、理論としてそのことは理解しているが、今一つ真の意味を解っていない。全般的な学校の成績はまあまあなのでいたってのんびりしているが、その学校で真にやらねばならない教科については、今一つできていないので、この春休みの短かい時間だけでも教育パパになってやることにした。

確かに、全国の平均的なレベルから見れば、その点数そのものもそんなに悪くはないかもしれない。しかし、敢えて山村のその高校を選んだ意味、また、将来の目標から見た場合、目先のテストの点数がほどほどにとれても、基礎的なことが本当に解っていないければ、と

でも大願は成就しない。基礎力を高めることは、容易ではない。繰り返し、繰り返し問題を解く。これでもか、これでもか、とノートが真っ黒になるまで書き込み、模擬テストで自分の実力度合を図り、更に繰り返し挑戦して行く。これをあきらめないで続けていけば、脳細胞さえ破壊されていない人間ならば、やがて力はついてくる。

私が、この春休みという短かい期間、長女に教えようとしているのは、『どんなに難しくても諦めずに続けられれば、やがて目標に到達できるのだ!』という経験なのです。この真理は、学校の勉強や各種試験への合格ということばかりではない。これから先の長い人生において、多くの困難に出逢った場合にも言えると思うのです。そのことを、今の受験勉強の中で学び成功体験を積み、物事に対する思考・判断パターンをしっかりと教えたのです。

これは、私の子供だけにではなく、今年も

スバライイ何人も新人が入ってきましたが、その人達にも、先輩の皆さんにも、そしてお客様の皆様にも申し上げたいと思います。かつて、あるお客様より、南極越冬隊の隊長をされた探険家でもあり、また東芝など民間企業の研究室にも在籍された技術者かつ科

学者でもあり、大学教授でもあった著名な「西堀栄三郎先生」の著書をいただいたことがある。その中で、遭難する人の特性について、述べておられる一節があった。

準備も装備も万全でも遭難する人がいる。例えば、砂漠に出たとき。歩いて行く。竜巻がくる。昼間はとても暑い、夜は暗く寒くなる。磁石もちゃんと持っており、歩いていく方向も正しく示している。しかし、とても不安になる。つい、磁石が狂っているのではないだろうか? と思ってしまう。どうも右の方のような気がして、右にフラフラ

といってしまう。途中で、また迷い左に行き前に行き後に戻り、結局自分自身を見失い遭難する。といった、概略このような話であったと思う。事業を経営していく上でも、ビジネスマンとして生きていく過程においても、必ず一度や二度は、「ああ、もういやだ。」と、全て投げ出してしまいたい時がある。しかし、そこで投げ出したらおしまいである。辛いから投げ出す。そんな姿勢では大したこと、大した事業もできるものではない。こんなことは、私も何度もこの欄で書き、多くのスバ

ライイ人々から聞き知っている。でも、多くの人が挫折していくのは、やはり苦しいからである。苦しさ・辛さと戦い、敗れていくのである。

サラリーマン生活12年、開業14年間で約40〇社あまりの企業に関与させていただき、この間さまざまな企業の興亡・盛衰、色々なビジネスマンの栄転・左遷・転職を見てきた。あんないい人が……あんないい企業が……複雑な思いで、その蹉跌を見送ってきた。

どんな企業にも、どんな人間にもつまずきはある。つまずいて立ち上がるのと、つまずいてこけてしまっ立ち上がらないのとは紙一重なのである。

人生は、有限であります。それを右往左往しては、あっとい間に終わってしまう。目標さえ誤っていないければ、その目標をしっかりと肝に銘じ、あとは繰り返し繰り返し挑戦することです。そうすれば、大抵のものは達成できます。

成功するか、失敗するかは、ほんの僅かな差なのです。どんなものでも成功しないのは、もう少し頑張れば目標が達成できるのに、その直前で諦めてしまうからです。

私達も、今までの記憶を呼び起こしてみれば、諦めずに繰り返し繰り返し挑戦したものは、必ず成功したはず。これからも、大きな目標に向かって、繰り返し挑戦し続けたものです。